NPO法人 臨床応用科学
Clinical and Applied Science

Vascular Street Journal

特集

新年度を迎えて、
福岡大学病院循環器内科の紹介

福岡大学病院ハートセンター　～朔学長を囲んで～
（2019 年 12 月 2 日撮影）

「循環器基本法と地域連携」

脳卒中、心臓病その他の循環器病（以下「循環器病」）が、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状から、循環器病の予防に取り組むこと等により国民の健康寿命の延伸等を図り、あわせて医療及び介護に係る負担の軽減に資するよう、令和元年12月1日に「脳卒中・循環器病対策基本法」が施行されました（図1）。

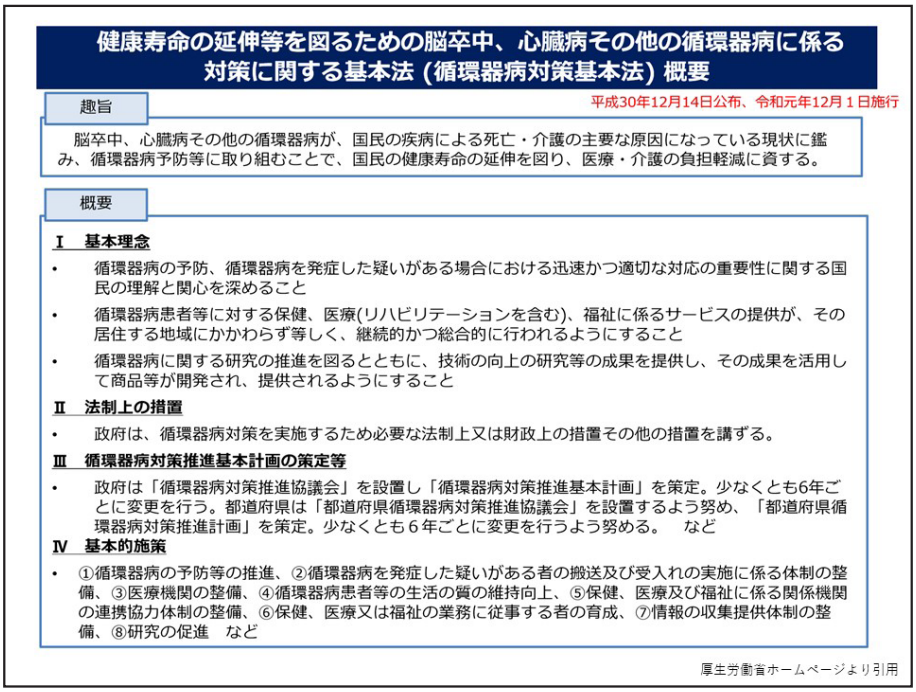

図 1

同基本法により、循環器病の予防、循環器病を発症した疑いがある場合の搬送及び医療機関による受入れの迅速かつ適切な実施、循環器病患者に対する良質かつ適切なリハビリテーションを含む医療の迅速な提供、循環器病患者等に対する保健、医療及び福祉に係るサービスの提供が継続的かつ総合的に推進され、あわせて循環器病の予防、診断、治療、リハビリテーション等に係る技術の向上その他の研究等が推進されることとなります。当院では、循環器病に関する医療を提供する機関（法第１４条に規定）の中心として、入院・外来通院可能な医療機関として、福岡大学西新病院、さくら病院、村上華林堂病院、井上病院、在宅医療機関として薬院内科循環器クリニックと連携し、地域医療の構築、循環器病の予防とリハビリテーションを行う機関として、同基本法の目指す体制整備に寄与していく所存です（図2）。

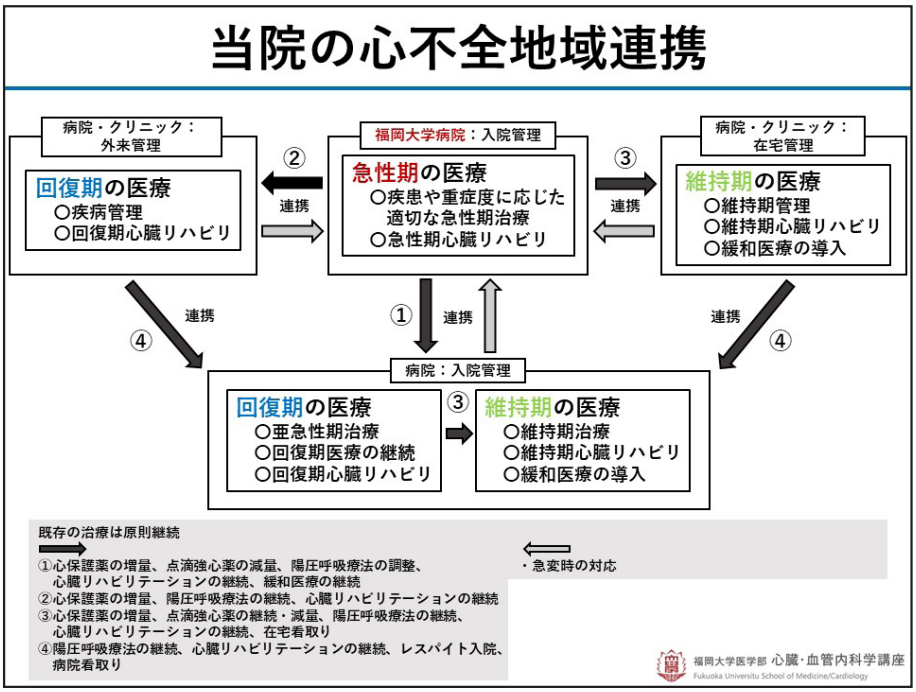

図 2

NPO法人 臨床応用科学
Clinical and Applied Science

「当院における新たな取り組み」

・FFRCT

FFRCT は、国内において2016年11月に医療機器承認取得、2018年12月に保険収載可能となった検査です。病態の安定した冠動脈疾患が疑われる患者に対し、冠動脈コンピューター断層血管造影（心臓 CT）データを基にした数値流体力学解析を行い、FFRCT （Fractional Flow Reserve：冠血流予備量比）値を算出し、診断を支援するプログラムです(図3)。医学的見地から心臓 CT が必須であり、心臓 CT の結果のみでは、観血的冠動脈造影検査(CAG)、または冠動脈形成術(PCI)の必要性の判断が困難な場合に利用します。

当院は、実施施設要件を満たし、保険収載可能な施設です。現在、約500例 / 年の心臓 CT 検査数を確保し、必要な患者に対し入院の上、CAG や PCI を施行しております。この FFRCT を導入すれば、検査・治療の適応患者をより多く正確に選択することが可能となり、より多くの患者の適切な治療を提供できるものと考えます。

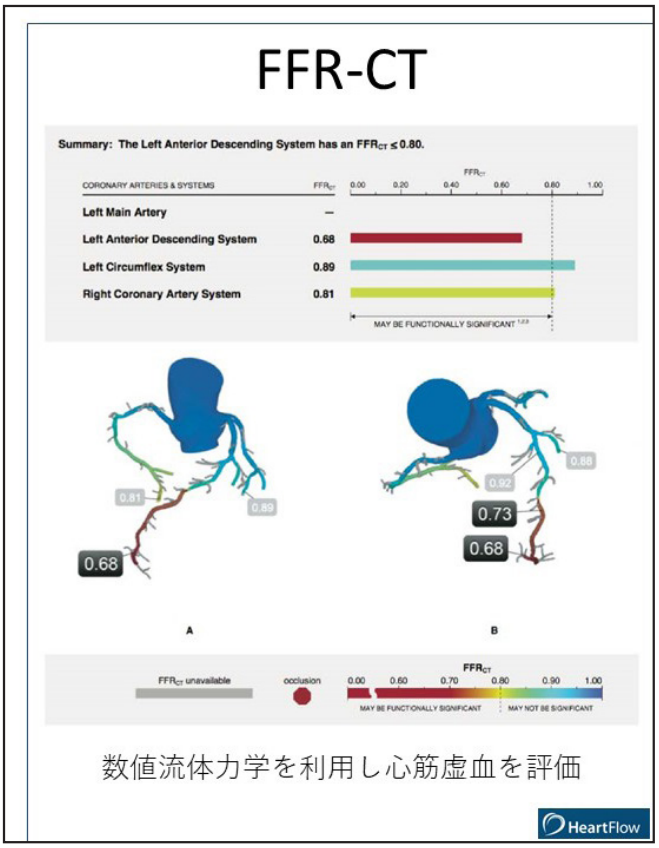

図 3

・経カテーテル的大動脈弁植込み術(TAVI)

大動脈弁狭窄症は高齢者に多い弁膜症で年月とともに進行性し、治療をしない限りきわめて予後不良な疾患です。2013年より経カテーテル的大動脈弁植込み術(TAVI)が保険収載可能となり、手術リスクが高い患者には開胸手術をすることなく新しい弁（生体弁）を留置することが可能となりました(図4)。当院は2021年からの開始を目標に、心臓・血管外科と協力し準備を進めております。

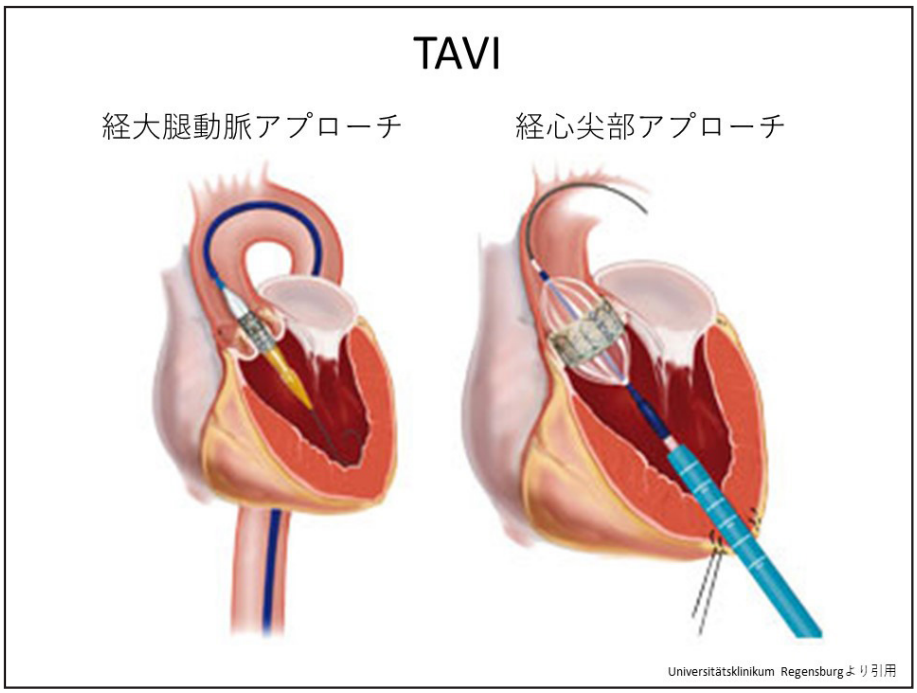

図 4

NPO法人 臨床応用科学
Clinical and Applied Science

「福岡大学西新病院」

福岡大学西新病院外観

福岡大学病院の連携機関の一つであります福岡大学西新病院は、福岡市医師会から成人病センターを事業譲受し、平成31年4月に開院いたしました。令和元年12月からは、三浦伸一郎教授がその後を受け継ぎ、病院長に就任されました。西新病院の前身である成人病センターは、長く福岡市の地域医療を支えてきました。現在もこの成人病センターの精神を継承し、地域と密に連携を取った病院としての機能を継続しております。西新病院は、「地域に信頼される医療の提供」を基本理念とし、地域の医療機関からの紹介患者を速やかに受け入れ、その特徴を活かして福岡大学病院などの高度専門医療機関との密な連携により、地域医療と高度医療とを橋渡しできる新しい形の地域医療連携を目指しています。

診療科目は、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、一般内科、小児科、脳神経内科です。今後も、地域医療のニーズに答える西新病院の発展的改革を実現する所存ですので、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、2020年4月から福岡大学筑紫病院循環器内科教授に当科医局員であった河村彰先生が就任されました。また、新3年目として御鍵昌史先生、立花哲郎先生が入局されました。当科は、学長を輩出した講座・診療科としてますます発展していかなければなりません。臨床、研究、教育、そして地域医療の発展に貢献できるよう、医局員一丸となって努力して参りますので、宜しくお願い致します。（文責　医局長　志賀悠平）

福岡大学筑紫病院外観

河村彰教授

Prof. S. Miura's Commentary

福岡大学病院循環器内科は、先進技術を取り入れた高度急性期医療を実践しています。断らない患者中心のあたたかい医療をモットーに医局員一同、これからも精進して参りますので、今後とも福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院と共に、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願い致します。

Editor-in-Chief: Shin-ichiro Miura, MD, PhD, FACP, FACC